『できる日本語　初級』課ごとの道しるべ

これまで『できる日本語』がよりよく使えるように、「アドバイス帳」などを作成してきました。しかし、それでもいろいろなご相談をお受けしています。こうした皆さまとのやり取りを通して、使い方に悩んでいらっしゃる方には、次のようなことに気がついていただきたいと思いました。次のことが欠けている場合が多いことに気づきました。

・教科書の内容を読み込む
・教科書の文法を読み込む
・立体的に教科書を見る

そこで、まずは教科書をより良く理解していただくために、「な～るほど。ここに、こんな仕掛けがあったのか！」「そうか、こんなふうに実践すればいいんだ！」という楽しい発見への道案内をしたいと考えました。特に初めて教壇に立つ方、職場に「対話」ができる仲間がいらっしゃらない方などのお役に立つことをめざしました。紙面での“伴走”ですので、限界がありますが、できるだけお会いしてお話ししているような雰囲気で書き進めたいと思います。

日本語教育実践に重要なのが「対話」です。多田孝志（2017:63）は、『グローバル時代の対話型授業』の中で、次のように述べています。

> 対話の形態を「自己との対話」および、１対１のみならず、複数以上の参加者同士による対話とする。また、さまざまな事象・生物等の対象をみつめて無言の語り合いも対話に包含する。

ぜひ仲間との対話や自己との対話に、「教科書との対話」を加えてください。そして対話を重視した＜立体的な教科書利用・授業展開＞をしてください。なお、『できる日本語教え方ガイド＆イラストデータ CD-ROM』に記載されているようなポイントは、ここでは省略します。

「できる日本語」教材開発・普及プロジェクト
リーダー　　嶋田和子

１課「はじめまして」

＜行動目標＞
簡単に自分のこと（名前・国・趣味など）を話したり相手のことを聞いたりすることができる。

＜3 つのスモールトピック＞
ＳＴ１「私の名前・国・仕事」
自分の名前、国、仕事を言ったり相手に聞いたりすることができる。
ＳＴ２「私の誕生日」
年齢を言うことができる。誕生日を言ったり聞いたりすることができる。
ＳＴ３「私の趣味」
趣味を言ったり聞いたりすることができる。

Ａ　【話してみよう】

「ゼロスタートの学習者には、どのようにスタートさせたらいいのか」という質問を受けることが多々あります。『できる日本語』は、こうした学習者にとっても学びやすい教科書です。ひらがなも習ったことがないゼロスタート学習者の場合は、1 課は「教科書を開いて……」というよりも、教室内の会話やＣＤを通して進めていきます。既習者の場合も、ＣＤを使うことによって学習者に音に慣れてもらうことを大切にしています。

まず p.15 の【話してみよう】のイラストと写真を見てください。イラストには「握手によるあいさつ／タイ式合掌あいさつ／名刺交換あいさつ」の 3 種類が出ています。学習者はこれを見るだけで、『あいさつの場面』だとわかります。「あいさつ」は国によって違うので、楽しいスタートとなります。

名刺の写真もあるので、実際の名刺を利用したり、また白紙の名刺用ペーパーなどを用意しておくと良いでしょう。まだ日本語を全く知らない学習者でも、これらのイラストや写真を使って、会話をすることができます。チベット、ザンビア、インドネシア……等、世界にはいろいろな興味深いあいさつがあります。ぜひ調べてみてください。できれば、新しいクラスの学習者の出身国・地域を知ってから初日授業に入りたいものです。

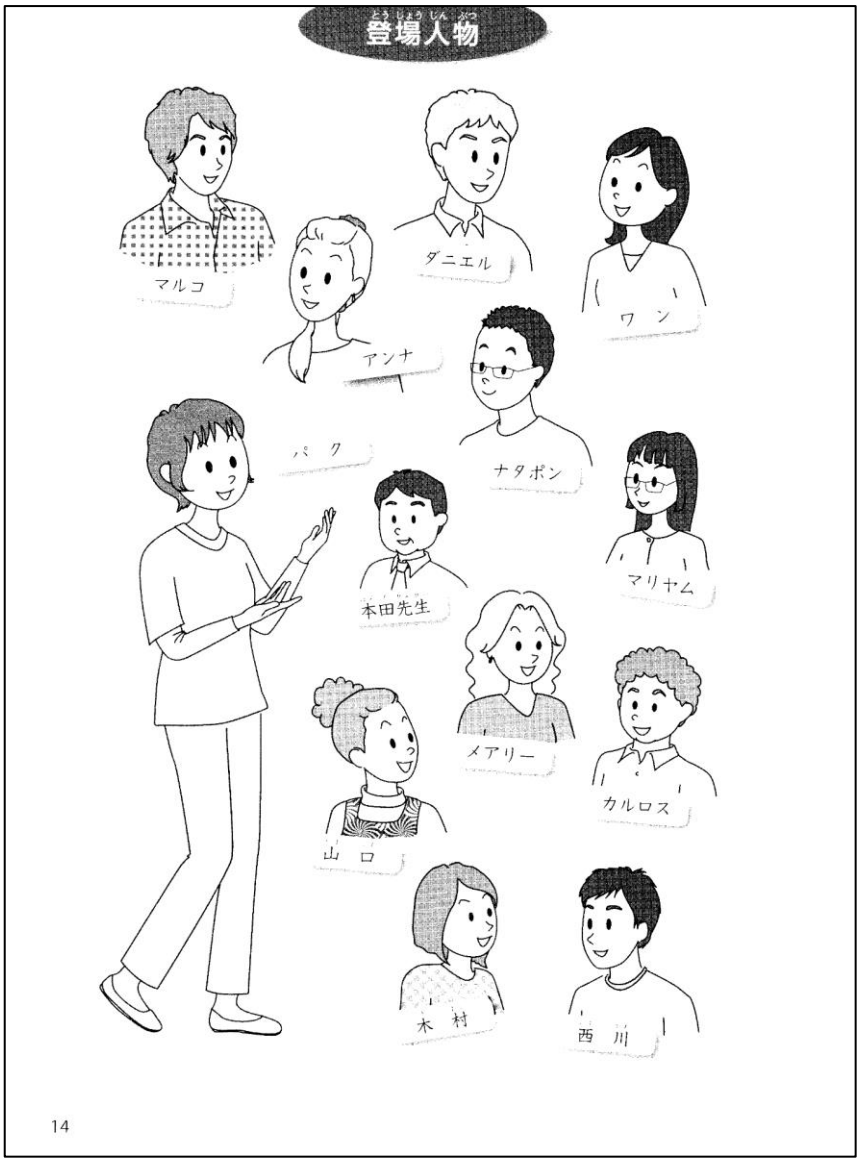
教師も、授業用に楽しい名刺を作っておくいいですね。大きさもデザインもそのクラスに合わせて・・・

「【話してみよう】は、時間がないから飛ばしている」という学校があるようですが、それはあまりに勿体ない教科書の使い方です。それほど時間はかかりません（標準的には、5～8 分)。このコーナーを使うことで、学習のモティベーションを高め、クラスの仲間と会話をすることの楽しさを知ることができるのです。では、【話してみよう】の役割を確かめておきましょう。

① これまでに学んだ日本語、自分の知っている日本語を使ってたくさん話せるように教師は学習者に発話を促します。
（1 課は、スタートの課ですので「これまでに学んだ日本語」がゼロの場合もありますが、既習者の場合は、1 課でもいろいろ話すことができます）

② この課で学ぶことをイメージできるようにします。

では、ここで登場人物についても、しっかり把握しておきましょう。教科書 14 ページにありますが、ここでは出身国なども記しておきます。登場人物を設定するときには、年齢・出身国・地域、趣味、キャリアなどを細かく考えて作り込んでいきました。それが教科書全体のストーリーづくりにつながっています。皆さんも、教科書を＜眺める＞のではなく、ぜひ＜読み込む＞ことをしてください。面白い発見がたくさんあると思います。



パク
　　韓国
メアリー
　　アメリカ
アンナ
　　ロシア
ワン
　　中国
マリヤム
　　イラン

ダニエル
　　オーストラリア
ナタポン
　　タイ
マルコ
　　イタリア
カルロス
　　ブラジル

B　【聞いてみよう】

ゼロスタートの学習者にとっては、これだけの量の会話を聞くのは大変です。しかし、音に慣れるという意味でも、ぜひ聞いてもらいたいと思います。自然な会話であり、既習者にとっては「わくわくするやり取り」です。最後のやり取りを見てみましょう。(p.30)

カルロス：そうですか。パクさんの趣味は何ですか。
　　パク：私の趣味は旅行と映画です。
カルロス：あっ、私の趣味も映画です。
　　パク：わあ、同じですね。

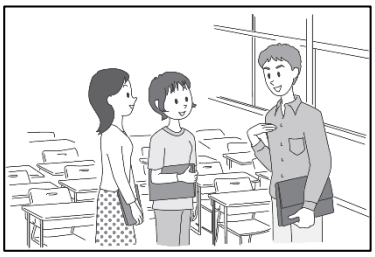
１課から、「フィラー（言いよどみ）」や「終助詞」を大切にしていることが分かっていただけると思います。

Ｃ　　ＳＴ１「私の名前・国・仕事」

「1 課だから、まだわからないので・・・」と状況イラストを飛ばすのではなく、きちんと見せて「この場面で話しているのだ」ということを理解してもらいましょう。こうした最初からの習慣が大切です。ＳＴ（スモールトピック）1 には、2 つの場面があります。チャレンジの仕方などは、『教え方ガイド』と教科書の pp.8-13 をご覧ください。この『道しるべ』では、皆様が忘れがちなこと、気づかないケースが多いものを取り上げます。ただし、1 課は初めての課ですので、少しだけ詳しく使い方のポイントもお伝えしたいと思います。

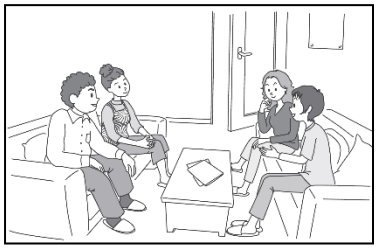
場面は、次の 2 つが出てきます。「初対面での会話」「知っている人との会話」の 2 つです。

場面 1（p.16）



状況イラストの説明文：
学校で初めて会った人に
自己紹介をしています。

場面 2（p.17）



状況イラストの説明文：
寮で最近知り合った人と
話しています。

初中級クラスの学習者が、こんなことを言いました。
「先生、日本語で会話をするとき、『できる日本語』の登場人物が、頭の中で踊るんですよ。」

初級の教科書をちょっと覗いてみましょう。

Ａ：アンさんは、アメリカ人ですか。
Ｂ：いいえ、アメリカ人ではありません。

しかし、この会話はどんな状況での会話かが分からないと、単にこれだけを繰り返して練習するのは意味がないものになりがちです。相手から国を聞かれたときは、

Ａ：お国はどちらですか。
Ｂ：アメリカです。

また、自分から出身について話すときは、「パクです。韓国人です。よろしくお願いします」という言い方を練習することになります。こうした点にも注意を払いたいものです。

スクリプトの大切さについて触れておきましょう。よく授業準備の際に教科書だけ見て、ＣＤは授業で初めて聞くという方がいますが、それでは良い授業展開はできません。是非授業を準備する際には、【チャレンジ！】のＣＤを聞くか、スクリプトを見るようにしてください。１つ例を挙げてみましょう。

１課のＳＴ１の最初の【チャレンジ！】１の状況イラスト、ＣＤスクリプトは次の通りです。

● 本冊16ページスクリプト

1　　**パク**：はじめまして。私はパクです。よろしくお願いします。
ダニエル：はじめまして、ダニエルです。こちらこそよろしくお願いします。
ワン：はじめまして。よろしくお願いします。
ダニエル：あのう、すみません。お名前は？
ワン：ワンです。

A 02

チャレンジをするとき、学習者はイラスト上にある「パク」「ダニエル」しか言えないと思います。しかし、教師がスクリプトを事前に見ておく、ＣＤを事前に聞いておくことで、【チャレンジ！】の際に、初対面のときにどんな挨拶をするかということを学習者に注意をうながしやすくなります。そのようなやり取りをして、ＣＤを聞くと、学習者もポイン

トがつかみやすくなります。
このように【チャレンジ！】には埋め込まれている会話がありますが、それを学習者から引き出す必要はありませんし、まだ習っていない状態で取り出せるわけがありません（既に習っている学習者は別ですが……）

ＣＤを聞いて、どのように言うか学習者自身で発見したあとで、ポイントにフォーカスして練習に入ります（学習者が発見できなくてもかまいません。教師がポイントを示しながら練習に入ります）。無味乾燥な「はじめまして。〇〇です。よろしくお願いします」とは異なり、自然な会話から入ることがよく分かると思います。「あのう、すみません、お名前は？」なども、日本語学習を始めた最初から知っておきたいコミュニケーションストラテジーです。

＜ひと言アドバイス＞
「先生」「教師」の違いにも気をつけましょう。
・お仕事は？　　教師です。
・田中先生、おはようございます。
別冊２ページのドリルに出ています。
（①私・教師、⑤パクさん・先生）

☞ ポイント　1、2、3、4
17

右ページの下に「ポイント」があります。これは、270 ページにある「ポイント一覧」の番号です。必ず学習者に伝えてください。教科書の構成を伝えることは、とても重要です。ただし、ゼロスタートの学習者の場合は、2 課以降で伝えるなど、配慮が必要です。また、初めて使う先生方は、授業準備の際にチェックすると、ポイントが整理されます。

「ポイント一覧」は授業中に使うことはありません。しかし、学習者の復習用にとても重要です。

【やってみよう】のＣＤは、聴解練習ではありません。結果として聴解力が身につきますが、ここでのＣＤの役割は、「これまで学んだことを復習しよう。それから、ロールプレイに行こう」ということです。そして、ＣＤを聞いたあとで、会話の中で注目してもらいたいところを学習者と一緒に確認しましょう。例えば、出身、仕事を知りたいとき、どのように聞いていたか、どこの学生かに関してどのように答えていたかなどに注目すると、あとでタスクがしやすくなります。

やってみよう　A 08

●本冊19ページスクリプト

1　パク：はじめまして、こんにちは。私はパクです。どうぞよろしくお願いします。
メアリー：こちらこそ、よろしくお願いします。私はメアリーです。アメリカ人です。パクさん、お国はどちらですか。
パク：韓国です。
メアリー：そうですか。
パク：メアリーさん、お仕事は？
メアリー：会社員です。ＡＢＥの社員です。パクさんは？
パク：学生です。あおぞら日本語学校の学生です。
メアリー：そうですか。

2　ワン：はじめまして。ワンです。よろしくお願いします。
木村：こちらこそ、よろしくお願いします。私は木村です。ワンさん、お国はどちらですか。
ワン：中国です。
木村：そうですか。お仕事は？
ワン：あ、学生です。あおぞら日本語学校の学生です。木村さんは？
木村：教師です。さくら高校の教師です。
ワン：そうですか。

【やってみよう】は、ＳＴ（スモールトピック）のゴールです。ただタスクをこなすというのではなく、ＳＴの「できること」をチェックしながら、進めましょう。

Ｃ　　ＳＴ２「私の誕生日」

【言ってみよう】1を見てください。ＳＴ１の復習に加えて、「26 歳です」が学習項目としてあります。このように、『できる日本語』では、ＳＴの中で中心となる文型を何度も繰り返し出しながら、新しい学習項目も加えていくという形を取っています。それによって、自然に言語的知識が場面とともに習得できるのです。

ここでは、日にちの言い方を学びますが、特別な言い方が自然に覚えられるように、【言ってみよう】には、「4 日、20 日、10 日、14 日」などが使われています。また、 （ニコニコマーク）が付いていますが、これは学習者に「自分のことを言う」ように促すマークです。学習者自身の誕生日を言い合うことで、楽しく日付を学ぶことができます。

※ 参考 （吹き出し）は、「会話の一部を学習者が考えて話す」マークです）

では、【やってみよう】の２つ目のスクリプトを見てみましょう。これは、誕生日がいつかについて聞いている会話です。

1
ワン：マリヤムさん、誕生日はいつですか。
マリヤム：誕生日ですか。6 月 13 日です。
ワン：6 月……。
マリヤム：13 日です。
ワン：そうですか。

2
パク：アンナさん、誕生日はいつですか。
アンナ：私の誕生日は 12 月 9 日です。
パク：12 月……。
アンナ：はい、12 月 9 日です。
パク：そうですか。

3
パク：ダニエルさん、誕生日はいつですか。
ダニエル：1 月 8 日です。
パク：4 日ですか。
ダニエル：いいえ、8 日です。

4
本田：ナタポンさん、誕生日はいつですか。
ナタポン：5 月 5 日です。
本田：へえ、5 月 5 日ですか。

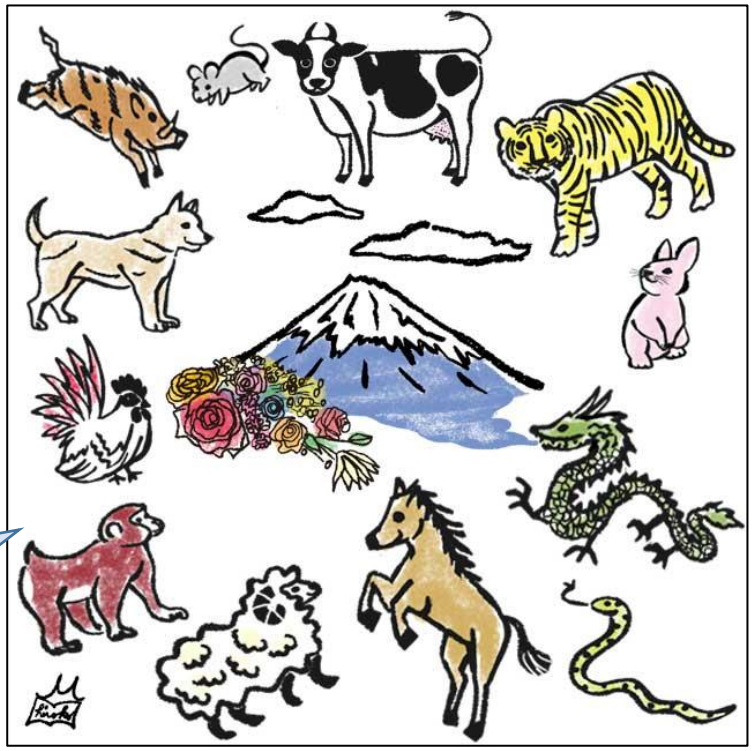
聞き返しや相づちなども、いくつかのパターンを見せるなど、コミュニケーションストラテジーにも十分に配慮した会話になっていることがお分かりいただけると思います。

ＳＴ２では年齢の言い方を学習しますが、「日本ではあまり年齢を聞いたり、言ったりしないこと」を押さえておく必要があります。例えば【やってみよう】１つ目のＣＤを聞いてください。3 番目の会話では木村さんは年齢を言っていません。このように『できる日本語』は、学習者が実際に使う場面・状況を常に考慮して作っています。

p.23 に星座の表がありますが、これはそのまま使うわけではありません。授業で使う際には、どうぞ工夫してください。また、もちろん使わずに、他のところで活用することも可能です。「なぜ１課で『星座』を扱ったのか」ですが、日時を楽しく応用しながら学ぶことと、新しいクラスで、早く親しくなることが狙いです。教室をコミュニティにし、何でも言い合える仲間／楽しく学ぶことの大切さを知ってもらいたいと考えています。そうした雰囲気の中でこそ、コミュニケーション力も言語的知識も身につくのではないでしょうか。

参考：星座イラスト例

ルビを振って使います。もっとわかりやすいイラスト・写真を使うと、より魅力的になると思います。



既習クラスの場合は、干支を出すのもアイディアの一つです。

Ｃ　　ＳＴ３「私の趣味」

趣味は「～ことができます」の文型と一緒に出すために、初級がかなり進んでから出てくることが多いようです（参考：『みんなの日本語』は、18 課です）。

しかし、せっかく 1 課で自己紹介をやっているのですから、ぜひ「趣味」は言えるようになりたいものです。

ここで、「使用文型・語彙」と、「理解文型・語彙」を意識していることをお伝えしたいと思います。たとえば、【チャレンジ！】3 のスクリプトを見てください。

ナタポン：ワンさんの趣味は何ですか。
ワン：料理です。
ナタポン：えっ？私の趣味も料理です。
ワン：わあ、同じですね。

「わあ、同じですね」は【言ってみよう】では扱っていません。つまり、聞いて分かればよいということで進めています。クラスによっては、自己紹介したとき、自分と同じ趣味の人がいたら、「わあ、同じですね」と言ってみるように促してみてはいかがでしょうか。他者との関係性を深めることに役立ちます。また、1 課で既に、いくつもフィラーが出てきますので、そこに注目するといいと思います（使えなくてもいいですが）。

では、ここで 1 課の場面をまとめてみましょう。学校・寮という場面で、関係性が次第に深くなっていきます。こうした「わくわく感」の高まりがあって、最後の【できる！】につながることを意識していただけると、さらに教科書を立体的に使うことができるのではないでしょうか。

ＳＴ１「学校で初めて会った人に自己紹介しています」
「寮で最近知り合った人と話しています」

ＳＴ２「寮の歓迎パーティーで自己紹介しています」
「寮の歓迎パーティーで寮の人と話しています」

ＳＴ３「教室でクラスメイトと話しています」

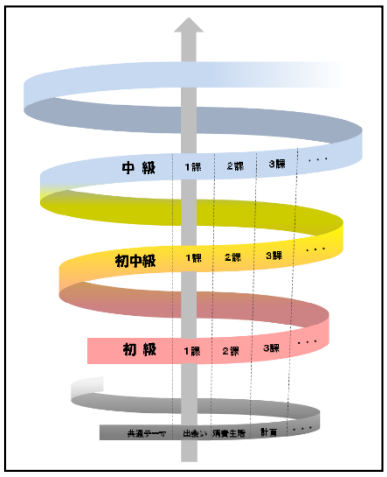
Ｄ　【できる！】

いよいよ１課のゴールです。教科書に書いている内容をただ進めるのではなく、【やってみよう】同様、課の行動目標を見ながら、授業を組み立ててください。

＜ある実践例から＞

【できる！】では、１課で習ったことをすべて使って、長く話せるようにしました。この自己紹介を録音（できれば、ビデオ）し、初中級１課になったとき、聞いてもらいました。学習者たちは「わあ、上手になった！」と、自分で日本語力の伸びを感じることができたようです。それが、達成感につながり、その後のモティベーションにつながっていきました。

※初中級「新しい一歩」でも自己紹介を学びます。



	初級	初中級	中級
１課	簡単に自分のこと(名前･国･趣味など)を話したり相手のことを聞いたりすることができる。	初めて会った人に丁寧に自己紹介したり、印象よく問い合せしたりすることができる。	新しい環境に自分から挑戦して、その環境で印象的に自己紹介することができる。

E　【話読聞書】

【話読聞書】では、「固まりで話すこと」をめざします。これまで、1課と言えば、

A：はじめまして。リンです。中国から来ました。
B：田中です。どうぞよろしく。

といったやり取りが中心であり、まとめていくつかの文で話すということは、初級スタート時点では、行われてきませんでした。しかし、『できる日本語』では自分のこと・自分の考えを伝える学習は初級1課から各課でやりたいと考え、【話読聞書】というコーナーを作りました。第1課でもいくつかの文(羅列文)で、その学習が可能です。自分のこと・自分の考えなどに関する「語り」をたくさん頭の中のフォルダーにしまっておくことは、とても大切なことと言えます。

では、【話読聞書】の使い方を説明しましょう。これは、読解文ではありません。上述したように、「固まりで話すこと」をめざしています。教科書の右にある吹き出しのような質問を受けたとき、どのように答えるかを教室で考えてみてください。ペアやグループで質問し合うこともできると思います。そして、その答えを使って、一人で長く話すことにつなげます。

その後、作文として書いたり、また、友達や先生が書いた文を読んだりします。すなわち 4 技能を統合的に学ぶことができる仕掛けになっています。その中でも「話」と「聞」が大切なので、字が大きくなっています。

（※毎課、作文を書くというわけではありません。臨機応変に対応してください。
また、字も読めない、書けないゼロスタートの場合には、1課での作文はありません。課が進んだところでやるのも1つの方法です）

F　その他

①　「ことば」（p.29）

「ことば」のページは、学習者の復習用にあります。新出語彙は、その場面・文脈で、出てきたときに導入してください。言葉は、場面・状況とともに学んでこそ使えるようになり、長期記憶となります。

②　太字と細字

2 年使用している方から、「太字と細字の違いは何ですか」と聞かれたことが複数回あ

りますが、ぜひ「使い方」はしっかり見ておいてください。無駄な負担を学習者に強いることは避けたいと思います。

教科書 p.11 より

太字になっている語は、旧日本語能力試験 3,4 級の出題基準で扱われていた語彙と 3,4 級語彙以外でもこの段階で覚えることが望ましいと思われる語です。

③ 副教材の使い方

『わたしの文法ノート』『わたしのことばノート』は基本的に復習用（宿題）です。この使い方については、「アドバイス帳」などをご覧ください。

『漢字たまご』は、「本冊」より何課か遅れて使うと、効果的です。既に語彙も文型もしっかり身についている状況で学ぶことによって、漢字学習にフォーカスすることができるからです。

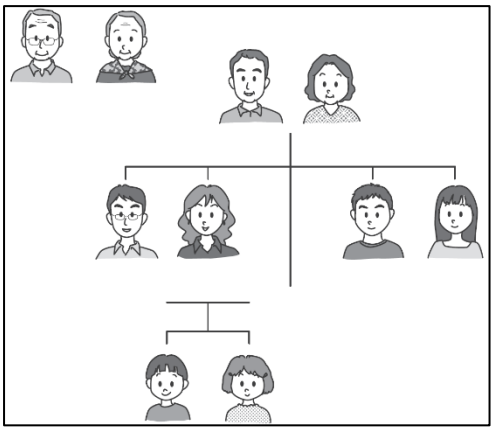
④ イベントチックな【できる！】を止めよう！

「【できる！】は時間がかかるからやめる」という学校の事例を聞いて、驚いたことがあります。それは、時間をかけすぎたり、お出かけをしたり・・・ということから来るのではないでしょうか。人を呼ぶ、イベントをすることが【できる！】ではありません。教室で（すでにコミュニティになっていることが大前提ですが）、みんなでやることも可能ですし、放課後に自発的にすることも可能です（自発的にやった後は、是非、後日学校でその時どうだったかなど、結果を共有してください。やりっぱなしにしないことが大切です）。「学習者の実生活に結び付ける」という視点を忘れないことが大切です。なお、【できる！】の実践例およびまとめたエクセル表などが、「できる日本語ひろば」にも載せてありますので、どうぞご覧ください。

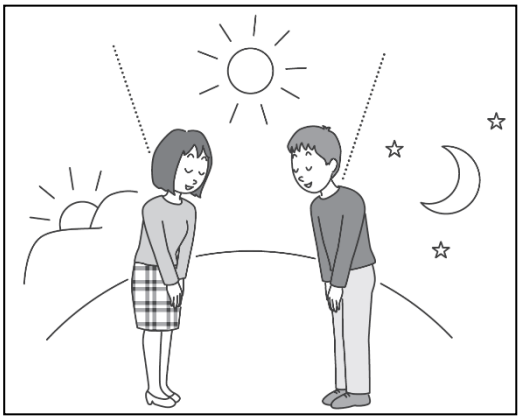
⑤ イラストデータ CD-ROM をうまく使おう！

1課ごとのイラストの前に、登場人物が一人ずつ載っています（[01]と表示されたイラストファイルです）。これは、自分でプリントを作るときなどに役立ちます。また、あいさつのイラストなどもありますので、どうぞご活用ください。いくつか例を挙げておきましょう。

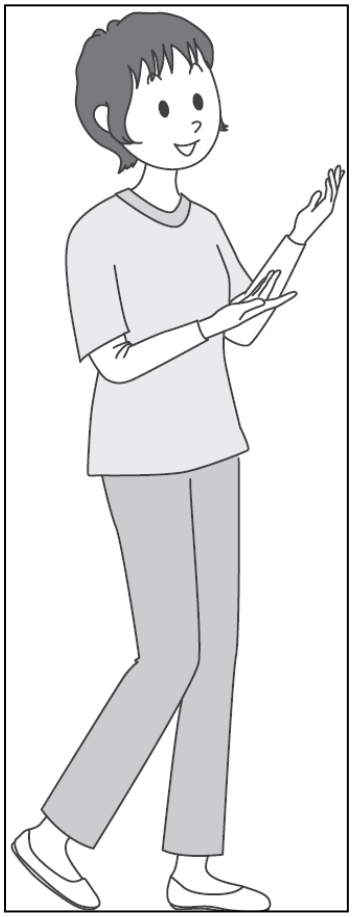
「00IT_1」



［00SM_1］



「00TJ_1」



「00TJ_2」